

根室の研究活動

研修部長 標津町立川北中学校
校長 大木 敏道

1. はじめに

根室管内小中学校校長会は、これまでの取組を生かし、年に一度根室管内小中学校校長研究大会を開催している。

今年度は平成22年度から始まった4か年研究計画の最終年度の年である。今年度から一人1レポートを持ち寄り、分科会討議を中心とした研究大会に変更した。

その各分会の内容と4年間のまとめを紹介することで、研究活動の一端を紹介したい。



2. 研究計画

(1) 研究主題

「根室の風土を生かし、心豊かにたくましく生きる力を育む学校教育の創造」

(2) 研究主題設定の趣旨

今日、社会の急激な変化に伴い、情報化、国際化、価値観の多様化などがますます進展化する中で、これからの学校教育においては、個性や創造性を発揮しながら社会の変化に対応して生きていくことのできる児童生徒を育てることが求められている。このことを踏まえ、私たちは根室の地に刻まれた深い歴史と先人の志を継承し、生涯学習社会における学校経営の望ましい在り方を校長という立場から究明し、充実した学校経営を推進するために研究主題を設定した。

3. 研究の概要

(1) 根室管内小中学校校長研究大会

- ① 開催日 平成25年8月21日（水）
- ② 会場 中標津町トーヨーグランドホテル
- ③ 分科会構成 4分科会

(2) 分科会の研究内容

① 第1分科会「教育課程に関する内容」

- ア 分科会主題 「人間力を豊かにはぐくむ特色ある教育課程の編成・実施」
- イ 今年度研究内容 ・確かな学力を育む教育課程の工夫
 - ・一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実

ウ 4年間の研究のまとめ

- ・4年間の実践発表から見えてきたものとして、学期の節目や学年末に実施される学校評価により、PDCAのマネジメントサイクルの手法により、教育課程をどのように編成していくか共通理解を図ることができた。

② 第2分科会「学校経営と特色ある学校づくり」

ア 分科会主題 「地域に根ざした特色ある学校づくりの推進」

イ 今年度の研究内容 ・横断的・総合的な学習や探求的な学習の充実
・地域と連携したキャリア教育の充実

ウ 4年間のまとめ

- ・各学校が地域の教育の中核として、児童生徒の実態を踏まえ、創意工夫を生かした教育課程を編成し、地域に根ざした特色ある学校づくりを推進するとともに、その成果を検証し、学校運営の改善を図り、家庭や地域等との連携協力体制を構築することができた。
- ・各学校が自校の特色を踏まえた教育目標を具体的に設定し、その達成状況について保護者や地域等に対し情報提供を行うことができた。

③ 第3分科会「児童生徒の健全育成」

ア 分科会主題 「豊かな人間性と創造性をはぐくむ学校教育」

イ 今年度の研究内容 ・自主的・実践的態度の育成
・自然体験や社会体験の充実

ウ 4年間の研究のまとめ

- ・道徳教育推進体制が整備されてきた。今後更なる内容の充実が期待される。
- ・地域のよさを発見しようとする取組が多く見られた。
- ・縦割り班での活動で学年間の結び付きがよくなってきた。
- ・指導のポイントを示すことにより、生徒と教師の相互関係が深まり、信頼関係が醸成されてきている。
- ・教師間、あるいは学校間の情報の交流が図られてきている。
- ・不適応児童生徒への対応では個々の事例を基に対応を検討することができた。

④ 第4分科会「家庭・地域との連携」

ア 分科会主題 「家庭や地域との連携・協力の推進と学校教育」

イ 今年度の研究内容 ・異校種連携の充実
・危機管理と開かれた学校づくり

ウ 4年間の研究のまとめ

- ・保護者や地域を取り込む学校づくりを進めるためには、啓発活動を粘り強く継続するとともに、身の丈以上の規模を求めず小さな提案を続けていくことの重要性が明らかになった。
- ・異校種連携については、情報を早期に共有することや内容的にも一歩踏み込んだ連携と教職員の意識の転換を図ることとともに、その第一歩が管理職間の発信・連携こそ決め手であることが明らかになった。

4. おわりに

一人1レポートの提言内容は管内小中学校の学校経営に役立つものとなった。昨年度までの研究の成果と課題を踏まえ、課題解決に向けた校長の指導性、校長の役割等が分科会協議の中で究明され、4か年の研究のまとめを行うことができた。